

群馬県太田市において確認されたタイワントビナナフシ *Sipyloidea sipylus* (Phasmodea:Diapheromeridae) のその後について

佐藤智子・高橋文吾(ぐんま昆虫の森ボランティア)・金杉隆雄(群馬県立ぐんま昆虫の森)

はじめに

タイワントビシナナフシは、東海地方以西に分布しており、関東地方では神奈川県横浜市で1例の記録(高桑 1989)と千葉県館山市(木村・倉田 2012)における記録が知られており、千葉県館山市では定着が示唆されている(尾崎・福島 2016)。本種はこれまで関東地方の内陸部においては記録されていなかったが、2016年に群馬県太田市において本種が確認された(金杉・高橋・佐藤 2017)。2017年にも同地において、タイワントビナナフシが確認されたので報告する。

確認状況

タイワントビナナフシは、太田市菅塩町の菅塩沼東側駐車場の石垣で2016年8月に2個体の幼虫が見つかった。そのうち1個体が2日後に羽化して成虫となり、本種と確認された。

2017年9月3日に同地を訪れたところ、昨年と同様の場所である駐車場の石垣周辺で2個体のタイワントビナナフシ幼虫が見つかり、持ち帰り飼育したところ、9月6日に1個体が羽化して成虫となった。

考察

2016年にタイワントビナナフシの幼虫が初確認され、群馬県内で生息している可能性が示唆されたが、2017年にも幼虫が見つかり、同地で繁殖、成育しているものと推察された。

2016年度は食樹が確認できなかったが、今回、本種幼虫が見つかった場所に成育していたヌルデを入れて飼育したところ食痕が確認された。

市川(2016)においても食樹としてキイチゴ類(バラ科)、フジ(マメ科)、キク(キク科)と並んでヌルデ(ウルシ科)が記されており、同地ではヌルデが食樹である可能性が高いと言える。



ヌルデの葉上で見つかったタイワントビナナフシ幼虫

引用文献

- 市川顕彦(2016)：ナナフシ目．日本産直翅類標準図鑑．日本直翅類学会（編）、学研、東京、p.196.
- 金杉隆雄・高橋文吾・佐藤智子(2017)：群馬県太田市におけるタイワントビナナフシの採集記録．群馬県立自然史博物館研究報告、21:105-106.
- 木村篤志・倉田章久(2012)：千葉県館山市におけるタイワントビナナフシの記録．月刊むし、502:11.
- 尾崎煙雄・福島努(2016)：館山市でタイワントビナナフシを採集．房総の昆虫、57:104.
- 高桑正敏(1989)：タイワントビナナフシを神奈川県横浜市で採集．月刊むし、226:9.